

モデル事業名	伝統的古民家再生と地域資源の活用を通じた新たなコミュニティの創出
活動団体名	小原ECOプロジェクト
ホームページ	http://www.katsuyama-ohara.com
所属/ 担当者名	國吉 一實
連絡先	ohara-eco@nifty.ne.jp
活動地域	福井県勝山市小原地区

● 活動地域の概要

・福井県勝山市の北東部に位置し石川県境に隣接した山深い山間集落であり集落の成り立ちは集落周辺に点在する中世旧跡などからの推察により 1000 年を超える。その長い歴史の中で培われた生活文化も集落の終焉と共に消えようとしている。

・ 90 世帯 500 人（明治期） = 28 世帯 80 人（昭和 55 年） = 2 世帯 2 人（現在）
平均年齢 72 歳 高齢化率 100%

・公共交通の現状= 2 便/日のコミュニティバス（予約制）

・産業=（昭和 30 年代迄）木炭製造、林業（現在）特になし

・地域森林面積 95% 耕作放棄地等 4%

・家屋数 17 棟（内 11 棟が空き屋）

民家調査により福井県内には唯一残る白山麓地域に共通する建築様式（大壁造り、腕木等）を持った古民家群であり急傾斜地の石垣の上に建つ集落景観は独特である。現在までに他の事業も含め 5 棟を古民家修復活動により修復し集落景観の修復の一端やエコツアー等に活用。



【位置図】



【伝統的建築様式の古民家群】



【コミュニティの崩壊と文化の衰退が進む集落】

● 活動地域の課題

・平成 18 年豪雪による集落民家の損壊（28 棟中 15 棟が全損壊）により景観の悪化、倒壊の危険性、地域住民への絶望感が指摘されている。

・上記の豪雪による古民家群の損壊や急激な過疎化による伝統的生活文化の衰退と喪失が懸念され、歴史と風土の中で培われた文化の伝承・保存・記録が望まれている。

・住民が 2 人という中で崩壊したコミュニティや失われた集落機能の中では集落の消滅により管理者不在による森林の荒廃、耕作放棄地の拡大、ゴミの不法投棄など自然環境荒廃が懸念されている。

● 活動の内容

（全体）

大学等教育機関との協働による古民家調査及び修復を実施。=修復古民家を拠点とした地域文化の継承や交流による地域活性化を探る体験会実施等の研究調査活動。 地域資源（歴史・文化・自然）の活用によるエコツアーコース設営のモニタリング、ワークショップ等開催による調査研究活動。

集落景観の再生や地域資源の有効活用による活性化等を多様な団体、個人との連携、協働により活動を展開しつつのネットワークの構築を図り新たなコミュニティの創出を試みる。（以上 20 年度）

修復民家を世代間交流及び地域間交流の拠点としての活用を図る。 伝統的生活文化の継承、記憶づくりと題し体験会の実施、対象文化のデータベース化、映像保存を実施。 地域資源活用策としてのモデルエコツアーコースの設営及び運営を図る ④ 構築されつつある新たなコミュニティ組織による地域活動（祭り、草刈り、雪おろし等）の試行と新たなコミュニティビジネスの立上げを目指した研究調査活動を実施。（以上 21 年度）

（直近 1 年間の進捗など）

構築されたコミュニティ組織を核として継続的に事業を展開し、地域活動にも積極的に取り組んだ。

- ・ 集落景観の修復の継続
- ・ 新たな教育機関や団体との連携
- ・ 地域資源の有効活用（森林資源、耕作放棄地等）
- ・ 世代間・地域間交流の促進
- ・ 地域雇用の創出を目指したコミュニティビジネスの調査

● 活動の成果

全体

- ・ 修復古民家を交流体験施設としての活用を实践。また、モデルエコツアーコースとしてのガイドコースを開設し集落の新たな魅力を伝えることができた。
- ・ 伝統文化の保存に向けてデータベース化を図る聞き取り調査等の中で住民らの文化に対する新たな認識と再発見があり自らが持つ地域文化について自信と誇りを持つようになった。⇒積極的な活動への参加が芽生えた。
- ・ コミュニティビジネスの可能性を探る中で耕作放棄地の活用や荒廃森林の整備など地域活動とリンクした中での活動が展開でき、新たにコミュニティ組織へ加わる団体・個人の動きもあった。



(モデルエコツアー：シシ垣探索)



(地域活動：神社雪囲い)

直近1年間の成果など

- ・ 地元小学校との希少種保全活動。＝平成22年度 全国野生生物保護実績発表会参加決定
- ・ 新たに地元中学校との植樹活動を実施。
- ・ 地元新聞社との共催により林業体験を実施。県内：小学校高学年を対象に約50人が地域森林の整備に取り組んだ。
- ・ 新たに古民家1棟の損壊部分を修復。他にオープンスペースの交流施設を制作。
- ・ 他団体との共催により海外よりの5人を含む10人が2週間集落に滞在する中で耕作地の再生など地域活動を実践。
- ・ モデルエコツアーコースについて研究者を交えた再検討を行う。保全活動を含めた内容として実践する。
- ・ 地元地域ブロックの校長会より取り組み事業の事例報告依頼。
- ・ 地元高校生を対象とした企業訪問。
- ・ 鳥獣保護区域に設定。
- ・ 国立公園区域への編入が内定。
- ・ 第4回全国シシ垣サミットの来秋開催が決定。



(林業体験による森林整備)



(大学生らの休憩・交流施設の制作)

● 今後の課題及び展望

- ・ 課題（活動を通して発見された課題等を記入）
地区住民が減少していく中での地域の自立性（独立性）の確保及び担保。
- ・ 展望（今後の取組みや検討について記入）
— 地域の自立性に向けた取組み —
地域及び組織運営の資金確保を図る中での新たなコミュニティビジネスへの取組みにより経済的自立を目指し、雇用の創出や確保を図る中でのコミュニティ経済活動を検討。
新たなコミュニティによる地域マネジメントを検討。
名古屋大学による調査研究成果を基にした地域マネジメントに取り組む持続的な地域、活動の発展に取り組む。